

名古屋市立大学病院

手術、検査、処置に関する説明と同意書

私は、患者 ○○○○様 (ID: ○○○○、生年月日: ○○○○年○月○日) に今回行われる手術、検査、処置に関する以下の項目について、別紙説明文書のように説明いたしました。当院では患者様に十分理解して頂いた上で、自由意思に基づき医療を選択して頂くよう努力しています。説明文書には、手術などに関する診断名、手術などの名称、目的と必要性、効果と限界、危険性と合併症、代替治療法などが必要に応じて記載されています。御確認下さい。また医師からの説明および説明文書などに疑問な点などがありましたら、いつでもお尋ね下さい。

主な病名および病状: 硬膜外分娩 (無痛分娩)

手術、検査、処置の名称: 陣痛誘発・促進、吸引・鉗子分娩、帝王切開術、輸血

実施予定日: 平成 年 月 日

説明日時: 平成 年 月 日

説明医師: 産科婦人科 医師: _____ 印

(自筆署名、もしくは記名押印)

立会人: _____ 印

(自筆署名、もしくは記名押印)

名古屋市立大学病院院長様

私は、現在の病気の診療について上記に基づき説明を受け、手術、検査、処置の内容を十分に理解し了解した上で手術、検査、処置を受けることに同意いたしました。

平成 年 月 日 患者氏名: _____ 印

(自筆署名、もしくは記名押印)

家族等氏名: _____ 印

(患者との間柄:)

(自筆署名、もしくは記名押印)

注: この説明と同意書は、手術、検査、処置などについて詳しく説明された書類 (説明文書) を含みます。

< 手術、検査、処置の必要性、内容、危険性、合併症などの説明文書 >

患者氏名：〇〇〇〇 様 (ID：〇〇〇〇〇〇〇〇、性別：〇 年齢：〇〇歳 〇〇ヵ月〇〇日)

診断名および病状

1. 分娩

予定されている手術、検査、処置の名称

1. 硬膜外分娩、陣痛誘発・促進、吸引・鉗子分娩
2. 帝王切開術、輸血

実施予定日時：平成 年 月 日から 予定所用時間： 手術の場合 約 2 時間 00 分

これまでの経過と現在の状況ならびに手術、検査、処置が必要な理由

(期待される効果と限界および実施されない時に予測される病状を含みます)

1. 硬膜外分娩に伴い、陣痛誘発または促進を行う可能性があります。
2. 陣痛を起こす薬を陣痛誘発剤、陣痛発来していても弱くて分娩が進まない時(微弱陣痛時)に陣痛を強める薬を陣痛促進剤と呼びます。名称は異なりますが薬剤は同一のものを使用します。
3. 陣痛誘発または促進を行わない場合、以下のことが予測されます。
微弱陣痛の場合、分娩までにかかる時間が長くなることで母体や胎児にストレスがかかる、または分娩が停止してしまうことがあります。
4. 分娩直前に胎児機能不全で早急な分娩が必要な場合や、微弱陣痛などにより分娩進行がない場合、吸引分娩(吸引カップで胎児の頭を引く)や鉗子分娩(鉗子で胎児の頭を引く)が必要となる場合があります。
5. 分娩中に母児のいずれかが危険な状態であると判断した場合には(胎児機能不全、分娩停止、子宮破裂、常位胎盤早期剥離など)、緊急帝王切開術を行います。
6. 出生した赤ちゃんの状態によっては NICU(新生児病棟)に入院を要することがあります。

手術、検査、処置の具体的な方法と内容(どのような手術、検査、処置か?)

1. 陣痛誘発・促進剤はお産の時に私たちの体から分泌されるホルモンを薬剤にしたものです。内服剤(プロスタグランジン)と点滴剤(プロスタグランジン、オキシトシン)があり、子宮収縮の強さや子宮口開大の具合を見ながら少量ずつ決められた量を使用します。
2. 子宮口が閉鎖している、または広がりが出ない場合は、器械的な頸管拡張(ラミセル、メトロイリントル)などを行うことがあります。
3. 吸引分娩は赤ちゃんの頭に吸引の器械をかけ、鉗子分娩は赤ちゃんの頭を鉗子ではさみ、努責とともに児を牽引します。
4. 帝王切開術の場合、手術時間は約 2 時間です。麻酔科医による麻酔下(脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔または全身麻酔)で手術を行います。下腹部を切開した後、子宮を切開して児を娩出し、閉創します。
5. 分娩に伴い多量出血となった場合、母体救命のために輸血を行います。輸血は赤十字の献血を元

にして作った輸血製剤を使用します。

予測される合併症と頻度および対策（重要と考えられるもので、これ以外にもあります。）

〔陣痛誘発・促進剤使用〕

1. 陣痛誘発・促進剤の副作用には、過強陣痛、子宮破裂、嘔吐などの消化器症状、胎児の心拍異常などがあるため、胎児心拍監視装置を使用しながら少量ずつ投与していきます。

〔吸引・鉗子分娩〕

1. 吸引・鉗子分娩の合併症としては、母体の産道裂傷や子宮破裂、児の頭部・顔面の損傷や骨折・脱臼、頭蓋内血腫、外血腫などがありますので、注意して行います。

〔帝王切開術〕

1. 麻酔に関連する合併症：脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔の場合は血圧低下、呼吸抑制、頭痛など、全身麻酔の場合には咽頭痛、歯牙損傷、呼吸器系合併症、胎児への麻酔の移行などがあります。それぞれ症状に応じた対症療法を行います。
2. 出血：手術操作による出血、子宮復古不全の場合に出血が多くなることがあり、可能性は低いですが、必要があれば輸血を行います。輸血後に感染症、アレルギー反応、免疫反応などが発生することが稀にあります。手術中に稀に止血困難で救命のために子宮摘出を余儀なくされることもあります。
3. 周辺臓器損傷：腸管、膀胱、尿管などを損傷することが稀にあり、その場合は修復します。
4. 感染：腹腔内や創部の感染予防のため、抗生物質を投与します。創部に感染を起こすと縫合不全となることがあり、その場合は後日再縫合します。
5. 癒着・腸閉塞：術後に生じることがあり、対症療法を行います。
6. 血栓症・肺塞栓症：生命に危険が及ぶ合併症で、術中、術後に発症することが約0.06%あります。予防のために術前から弾性ストッキング着用、術中・術後は間欠的空気圧迫法、術後の早期離床を予定し、術後しばしば抗凝固剤を投与します。

代替治療法などの内容と利害得失

1. 重篤な母体合併症や胎児異常が疑われる場合、多胎妊娠等は硬膜外分娩の適応とはなりません。詳細な硬膜外分娩適応の判断については、麻酔科医師と協議の上、決定します。
2. 合併症の出現時には必要に応じ適宜対応いたします。

同意を撤回する場合の対応

1. 今回の手術、検査、処置に関する同意を手術、検査、処置を実施する前に撤回出来ます。同意を撤回しても引き続き当院で治療などを受けていただけます。
2. ご希望があればセカンドオピニオンなどについてご相談も可能です。

連絡先：ご質問などがある時は、下記までご連絡下さい。

1. 住所：名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
2. 病院：名古屋市立大学病院 産科婦人科 （主治医：〇〇〇〇）
3. 電話：052-851-5511